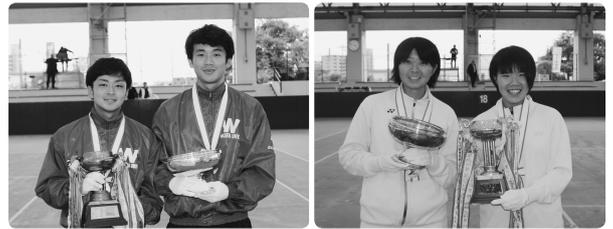


第72回天皇賜杯・皇后賜杯 全日本ソフトテニス選手権大会の開催について

日程 平成29年 10月20日(金) 受付 午前8時～ 開会式 午前8時30分～ 競技開始 午前9時
 10月21日(土) 競技開始 午前9時
 10月22日(日) 競技開始 午前9時
 10月23日(月) 予備日

会場 前橋総合運動公園テニスコート
 〒379-2107 群馬県前橋市荒口町437-2
 *日本最高峰のプレーを間近で見る事が出来るこの機会に、是非会場までお越し下さい。



前年度優勝者

最寄りの交通機関

- 永井運輸バスで25分
前橋駅～東大室行
運動公園入口下車(国道50号)徒歩10分
※便数が少ないので、ご利用の際はあらかじめ時刻をご確認のうえお出かけください。
- 日本中央バスで25分
前橋駅～大室公園行
運動公園内下車(北側)
- 最寄駅 駒形駅 車で10分
※駒形駅から直通的の公共交通機関はありませんのでご注意ください。

テレビ放映もありますので、来場できなかったという方は、是非ご覧下さい。

10月28日(土)NHK Eテレ 14:00～15:30(放送予定)



第12回 ソフトテニスジュニアジャパンカップ 『競技者育成プログラム(Step-4)』開催

日程 11月24日(金) Step-4強化練習
 11月25日(土) ジュニアジャパンカップ(シングルス)競技開始
 11月26日(日) ジュニアジャパンカップ(ダブルス)競技開始
 11月27日(月) Step-4強化練習

会場 宮崎県宮崎市生目の杜運動公園テニスコート
 〒880-2101 宮崎県宮崎市大字跡江4461-1
 宮崎県久峰総合公園テニスコート
 〒880-0212 宮崎県宮崎市土佐原町下那珂13754

競技者育成プログラム

〔基本理念〕

国際レベルの競技能力の開発を目指して、競技者の発掘・育成・強化の全体を通じた共通の理念と指導カリキュラムに基づいてそれぞれの時期に最適な指導を一貫して行います。また、ソフトテニス競技をより魅力のあるスポーツに育て、競技を通じて青少年の育成に寄与していきます。



〔Ⅰ. ソフトテニスの普及振興事業〕

1. ソフトテニス競技規則等の制定事業

- (1) ソフトテニス競技(ダブルス・シングルス)を実施するために必要な競技規則を定めることを目的として、ソフトテニスの振興と競技性の向上等、より安全に楽しく競技できるよう、ソフトテニスハンドブック(競技規則・審判規則・大会運営規則)やジュニア審判マニュアル等に反映するための検討をした。
- (2) 日本で発祥した競技であることから、国際ソフトテニス連盟(以下ISTF)やアジアソフトテニス連盟(以下ASTF)における中心的なリーダー国として国際競技規則との整合性を図ると共に、英語版審判技術マニュアル(DVD)等を活用して国際普及を推進した。

2. 全日本ソフトテニス選手権大会等開催

- (1) 国内競技会を大会実施要項に基づき実施した。
 - ① 全日本シングルス選手権大会の参加枠について見直しを図り、平成29年度大会より適用した。
 - ② 日本スポーツ振興センターの助成事業として、JOCジュニアオリンピックカップ大会/全日本ジュニア選手権大会、天皇賜杯皇后賜杯全日本選手権大会に対し助成金をいただき実施した。
- (2) 大会の検討と大会運営の改善
 - ① 全日本選手権大会において、NHK放送を考慮した会場の基準や進行等を工夫して「するスポーツ」と「見るスポーツ」双方を向上させるための検討を継続した。
 - ② 全日本団体総合選手権大会・全日本混合ダブルス選手権大会の新規大会創設の案を策定し、開催の検討を行った。
 - ③ 全日本シングルス選手権大会での参加枠の変更を検討し、平成29年度より対象とした。
 - ④ 日本スポーツマスターズに全都道府県の参加を目指してアンケート調査を実施し、大会の充実を図るため日程の検討と参加者の負担軽減等を検討した。

3. 地域等における競技会開催に補助を行った。

4. 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援

- ① 10月の体育の日(月)を中心とした週(金曜日から木曜日)をソフトテニス週間として定め、全国で一斉にソフトテニスを楽しみアピールした。
- ② 中学校部活動引退後の練習場所を確保し、引退後もプレーできる環境を提供し、またレディースを含めた社会人を対象として支部が実施する愛好者増加対策事業を支援した。

5. ソフトテニスの広報活動

- (1) 平成13年から継続している全日本選手権大会のNHKテレビ放送を16回連続実現した。
- (2) 日本連盟ホームページの充実と積極的活用を行った。また、日本連盟テレビ局及び各支部テレビ局の映像を通して、積極的な動画配信の広報活動を展開した。
- (3) 機関誌「ソフトテニス」を毎月発行し、内容の充実と購読者募集を行った。また、会員報を年2回発行した。
- (4) ソフトテニスの歌「ウイニングショット」、ソフトテニス応援歌「青空背負って」の周知を図った。
- (5) 2020年の東京オリンピックを見据え、ソフトテニスを広くアピールするために制作したソフトテニスの映画「案山子とラケット」を、公開時に劇場で見ることができなかった方々等を対象に劇場以外の非劇場にて上映することを決め、都道府県連盟への連絡、ホームページでの紹介を行った。また、マスコットキャラクター「そふていー」を引き続き小学生の大会、中学生の大会およびその他の大会等に登場させ、ソフトテニスを広くアピールした。

〔Ⅱ. ソフトテニスの競技力向上事業〕

1. ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査

(1) 競技力向上

- 1) 一貫指導システムの構築を図り、競技者育成プログラムをStep1からStep5の過程を経て実施することにより、競技力を向上させた。Step-1,2,3はスポーツ振興くじ助成金の対象事業、第11回ソフトテニスジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム(Step-4)」はスポーツ拠点化助成事業として実施した。
- 2) 日本代表チーム、ナショナルチーム(男子、女子)及び全日本U-14.U-17.U-20(男子、女子)の強化合宿を実施した。
- 3) 国際大会へ選手を派遣し、競技力の向上を図った。
- 4) 強化スタッフ・強化委員を各種大会に派遣した。

(2) 医科学研究調査

- ① 医科学スタッフによるサポート事業を実施した。
- ② 各種フィットネステストデータを分析し、競技力向上に役立てた。
- ③ 医科学研究報告書を作成・発行し、指導現場に役立てた。
- ④ JISSにおけるTSC事業での検査・測定を行った。

- ⑤ 選手教育資料としてのコンディショニングバイブルの改訂を行った。
 - ⑥ 公認コーチ養成講習会における講師協力を行った。
- (3) アンチ・ドーピング
- ① アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動を実施した。
 - ② 国内大会におけるドーピング検査を実施した。
 - ③ 国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動の推進を図った。

2. ソフトテニスの指導者育成

- ① 指導者養成講習会を9都道府県の会場や履正社医療スポーツ専門学校に於いて実施した。
- ② 全国小学生・中学生・高校生の指導者の合同研修会を実施した。(参加者166名)
- ③ 競技者育成プログラムおよび指導者養成推進等のため日本連盟として指導者バンクを活用した。
- ④ 積極的に指導者バンク(地域)を活用して、競技者育成プログラム(Step-1, 2)の推進及び中学、高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者の確保に努力した。

〔Ⅲ. ソフトテニスの国際振興事業〕

1. ソフトテニスの国際振興

(1) 国際普及活動の推進

- ① 国際組織(ISTF, ASTF)内での指導的立場に基づく国際性の向上を図った。
- ② アジア選手権、コリアカップ、ワタキューカップ大会、アジア加盟国会議時に普及国に対しラケット・ボールを支援した。
- ③ 普及指導用諸教材の活用を行い、国際振興に役立てた。
- ④ 国際普及親善活動に結びつく支部等の活動に対して、「国際親善大会補助」として助成した。

(2) 国際指導体制、審判体制の充実

- ① 国際指導員制度(ASTF)と国際審判員制度(ASTF)を推進した。
- ② アジア選手権大会時に、アジア各国から国際審判員24名を派遣し、また中国からの派遣審判員を国際審判員として認定した。
- (3) 国際競技大会の参加種目への招致活動及び大会運営を支援した。
- (4) アジアソフトテニス連盟加盟国会議を平成28年5月18日、19日の2日間、福岡県北九州市(北九州コンファレンスセンター)にて開催し、アジア連盟規約などについて検討・討議を行った。

〔各事業を推進するための組織と財政の強化〕

1. 公益財団法人としての高い社会的信用を維持し公益目的事業を行うために、組織体制の強化と財政運営に取組んだ。
2. ソフトテニスを通じて環境教育と青少年健全育成に取組んだ。
3. 会員登録制度の推進
 - ① 制度の周知徹底を図り会員登録を定着させ、さらに推進した。
 - ② 会員登録手続きの効率化
 - ・ 会員登録システムの活用を向上し、事務効率化を図った。
 - ・ 会員登録システム担当者引継ぎの利用を徹底し、登録責任者の交替の際の登録事務引継ぎの徹底と円滑化を図った。
 - ・ 会員登録システムに連動し、審判、技術等級の認定管理を行った。
 - ・ 会員登録システムに連動して実施した日本連盟主催大会申し込みのIT化に加え、平成27年度より開始した支部大会申込システムの活用を促進した。
 - ・ 会員証及び会員報配布の各団体への直接送付を継続し、支部関係者の事務負担の軽減を図った。
 - ・ 会員登録料納付システムの活用による会費および大会参加料等の早期かつ正確な納付による円滑な資金管理を推進した。
 - ③ 年2回(9月、2月)会員報を発行して会員登録料の使途及び日本連盟の情報を会員に周知した。
 - ④ 会員登録有料化からの階層別会員登録推移の検証・分析を実施した。
4. 暴力行為の根絶のため、平成25年12月1日に制定した指導基本規程に基づき、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、違反救済申立処理委員会を各支部(各都道府県連盟、日本学連、全国高体連、日本中体連)に、違反救済審査委員会を日本連盟に平成26年4月1日より設置し、指導基本規程等諸規程に従った対応を図った。
5. 2020年東京オリンピックに向けてソフトテニスを広くアピールするための広報活動として製作した指導教本(DVD BOOK)、映画、漫画を活用した。
6. 平成28年度は長期基本計画2012(平成24年度～28年度)の最終年であり、その進捗状況を把握し、着実に推進した。その上で新たな計画として平成28年12月に「長期基本計画2017」を策定した。

会員登録料に関する使途概要(平成28年度)

会員登録料(255,019千円)の使途は主として

- 1 競技力の向上「競技者育成プログラム」
- 2 競技性の向上
- 3 国際性の向上
- 4 大衆化の促進
- 5 広報活動の強化

等々の事業拡充のために用いられていますが、その他として、学連・高体連への還元、会員の傷害補償金および制度運営のための事務費にも充てられています。

具体的な金額は一般会計や特別会計のなかで従来からの支出科目に組込まれているため、かならずしも明確な仕訳になっていませんが、登録料を原資にした補充額は平成27年度は概ね次のとおりでした。

(競技力の向上 69,027千円)

- ・選手強化費(ナショナルチーム、全日本アンダーチーム合宿、国際大会派遣) 21,779千円
- ・競技者育成プログラム推進費(ステップ1～4、支部強化推進) 47,248千円

(競技性の向上 40,452千円)

- ・大会開催地・地域大会への補助、大会表彰 24,011千円
- ・全日本小学生大会・全国小学生大会・都道府県中学生大会 16,441千円

(国際性の向上 13,799千円)

- ・国際大会派遣費 2,975千円
- ・国際大会振興補助費 1,281千円
- ・国際普及用器具用品購入費 2,009千円
- ・国際普及指導費(親善大会、大会振興補助、普及指導) 7,534千円

(大衆化の促進 67,748千円)

- ・地域グループ育成費(各支部へ一般登録料の20%還元) 11,451千円
- ・ジュニア育成費(各支部を通じて小・中・高・高専登録料の還元) 38,064千円
- ・愛好者増加対策 7,050千円
- ・ソフトテニス週間、支部中学生大会 5,880千円
- ・審判、指導者育成費(小・中・高生指導者研修会) 5,303千円

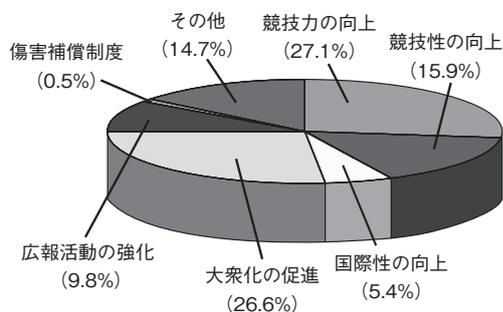
(広報活動の強化 25,093千円)

- ・テレビ放映関係費(NHK全日本選手権大会の番組製作費) 6,872千円
- ・インターネット関係費(ホームページ管理、システム構築) 8,207千円
- ・大会記録集作成費 1,417千円
- ・会員報作成費 3,830千円
- ・機関誌関係費 3,228千円
- ・その他広報活動費 1,539千円

(傷害補償給付金等 1,306千円)

- ・学連への還元 1,998千円
- ・高体連への還元 4,568千円
- ・中体連への還元 450千円
- ・会員登録事務費 27,025千円
- ・事務所管理費等 3,552千円

合計 255,018千円



事務局からのお願い

会員登録に関するお願い

毎年フリガナ入力の際による会員証の再発行申請が数多く発生しています。このフリガナ入力誤りによる再発行の製作費用は、皆様からの貴重な会員登録料から支払われています。少しでも貴重な登録料をソフトテニス振興に、より有効な使途活用ができるよう、登録時には該当者に事前確認をするなどして、正確なフリガナの入力にご協力をお願いいたします。

正味財産増減計算書(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

単位:円

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	1,161,611	2,149,406	△ 987,795
会費収入	300,098,500	301,675,000	△ 1,576,500
事業収入	161,498,098	164,099,453	△ 2,601,355
補助金等収入	85,601,354	85,355,280	246,074
協賛金寄付金収入	45,250,000	45,150,000	100,000
雑収入	4,824,279	5,094,617	△ 270,338
経常収益計	598,433,842	603,523,756	△ 5,089,914
(2) 経常費用			
事業費	249,441,698	211,294,987	38,146,711
管理費	115,196,079	118,803,517	△ 3,607,438
加盟費	1,075,603	1,080,315	△ 4,712
競技力向上費	166,947,080	158,736,430	8,210,650
指導者育成事業費	5,903,360	6,985,210	△ 1,081,850
大会開催等関係費	22,143,596	24,081,643	△ 1,938,047
スポーツマスターズ参加支援費	4,072,680	3,227,000	845,680
減価償却費	1,606,192	1,628,202	△ 22,010
経常費用計	566,386,288	525,837,304	40,548,984
評価損益等調整前当期経常増減額	32,047,554	77,686,452	△ 45,638,898
基本財産評価損益等	△ 3,363,946	27,789,528	△ 31,153,474
特定資産評価損益等	△ 68,010	69,010	△ 137,020
投資有価証券評価損益等	△ 44,930	△ 14,680	△ 30,250
評価損益等 計	△ 3,476,886	27,843,858	△ 31,320,744
当期経常増減額	28,570,668	105,530,310	△ 76,959,642
2. 経常外増減の部	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	28,570,668	105,530,310	△ 76,959,642
一般正味財産期首残高	613,481,405	507,951,095	105,530,310
一般正味財産期末残高	642,052,073	613,481,405	28,570,668
II 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	642,052,073	613,481,405	28,570,668

平成28年度会員傷害補償制度事故実績

本連盟独自の傷害制度の28年度給付状況と主な傷害内容は次のとおりでした。

事故件数 37件 支給給付金 1,279,000円

(単位:件)

傷害の内容	一般	大学生	高専	高校生	中学生	小学生	計
アキレス腱断裂	11						11
骨折	7				1		8
靭帯損傷	5			1			6
肉離れ	2						2
その他	7			2			9
死亡	1						1
計	33			3	1		37

充分なウォーミングアップで事故を防止し、ソフトテニスを楽しんでください。万一傷害に合われた場合は、本連盟にお問い合わせください。なお、補償内容・給付金請求の手続きについては日本ソフトテニス連盟ホームページの「傷害補償制度」に記載されております。

スポーツくじ



会員登録者の実績

(数値：人数)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成28年度	11,073	46,346	19,728	280,857	85,632	1,037	7,945	452,618
平成27年度	10,572	46,683	19,412	288,530	84,365	1,023	7,690	458,275
平成26年度	9,963	47,230	17,566	289,506	82,964	1,056	7,669	455,954
平成25年度	9,268	48,324	17,260	286,326	81,402	1,037	7,610	451,227
平成24年度	8,751	49,279	17,174	284,478	82,510	1,005	7,800	450,997
平成23年度	7,771	50,221	17,298	284,886	81,730	918	8,076	450,900
平成22年度	6,885	51,525	18,083	285,617	83,555	950	8,492	455,107
平成21年度	5,482	51,214	17,986	291,640	85,841	846	8,499	461,508
平成20年度	3,291	51,436	17,408	279,203	87,243	810	8,288	447,679

(注)平成20年度より指導者区分を設置。

平成28年度 会員登録数

No	支部名	指導者		一般		小学生		中学生		高校生		高専		大学生		合計	
		会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	
1	北海道	261	174	2,214	35	607	262	7,958	147	3,384	4	109	0	4	622	14,537	
2	青森	297	47	474	16	241	98	3,716	44	954	1	6	1	10	207	5,698	
3	岩手	354	58	1,062	30	463	130	4,127	68	1,892	1	40	0	15	287	7,953	
4	宮城	114	92	1,041	21	506	176	5,118	78	2,556	2	31	2	95	371	9,461	
5	秋田	230	37	504	16	401	76	2,434	40	1,018	1	7	0	3	170	4,597	
6	山形	180	39	563	19	449	67	2,894	43	1,247	1	6	1	15	170	5,354	
7	福島	435	77	664	29	692	152	6,577	72	1,718	1	42	0	3	331	10,131	
8	茨城	447	67	842	21	642	202	9,443	82	2,332	0	0	0	1	372	13,707	
9	栃木	43	36	762	19	477	123	5,413	51	1,267	0	12	0	26	229	8,000	
10	群馬	200	47	958	22	728	147	6,688	50	1,353	1	12	0	6	267	9,945	
11	埼玉	241	204	3,862	36	1,222	374	19,339	128	4,465	0	2	0	181	742	29,312	
12	千葉	778	108	1,777	21	552	338	17,010	118	3,347	1	7	0	28	586	23,499	
13	東京	175	135	2,930	26	465	213	6,780	181	4,614	1	11	0	132	556	15,107	
14	神奈川	609	91	1,044	15	467	357	20,193	131	3,188	0	0	0	2	594	25,503	
15	山梨	110	48	567	14	351	58	1,163	30	892	0	0	0	16	150	3,099	
16	新潟	224	55	842	23	486	159	4,831	64	1,378	1	22	0	4	302	7,787	
17	長野	149	36	1,339	17	403	121	4,425	68	1,553	1	13	0	4	243	7,886	
18	富山	138	23	387	17	438	61	2,397	28	897	0	0	0	1	129	4,258	
19	石川	51	50	667	22	421	68	3,610	37	1,131	2	16	1	54	180	5,950	
20	福井	38	34	349	5	193	41	1,364	16	573	1	0	0	4	97	2,521	
21	静岡	697	127	1,507	27	829	316	13,742	81	1,555	1	24	0	8	552	18,362	
22	愛知	278	174	3,025	24	798	356	19,006	144	5,958	0	35	0	36	698	29,136	
23	三重	98	48	594	14	383	148	6,407	47	1,380	1	4	0	36	258	8,902	
24	岐阜	59	60	840	27	694	254	6,870	50	1,923	0	11	0	12	391	10,409	
25	滋賀	101	31	494	12	378	77	1,010	41	1,463	0	0	1	15	162	3,461	
26	京都	137	85	779	16	431	110	3,565	55	1,650	0	0	0	1	266	6,563	
27	大阪	274	92	1,618	11	260	300	10,860	184	3,218	0	0	0	1	587	16,231	
28	兵庫	251	82	1,424	19	396	306	16,331	148	5,093	2	37	0	0	557	23,532	
29	奈良	128	34	909	9	161	64	2,793	27	954	0	0	0	2	134	4,947	
30	和歌山	155	56	687	19	403	104	3,462	30	917	1	37	0	0	210	5,661	
31	鳥取	77	37	389	12	169	34	1,171	23	529	1	16	0	0	107	2,351	
32	島根	87	52	415	11	298	49	1,781	39	874	1	0	0	0	152	3,455	
33	岡山	156	61	624	12	250	137	6,224	65	2,085	1	44	1	5	277	9,388	
34	広島	280	123	1,355	17	264	147	5,822	99	2,903	2	60	0	73	388	10,757	
35	山口	164	71	1,200	9	389	109	4,953	52	1,624	3	71	0	40	244	8,441	
36	徳島	148	24	333	8	158	94	2,212	26	497	1	29	0	0	153	3,377	
37	香川	45	27	383	10	256	48	2,499	30	736	2	12	0	1	117	3,932	
38	愛媛	159	36	620	13	303	130	4,331	63	1,388	1	68	0	3	243	6,872	
39	高知	60	27	346	12	154	32	935	23	525	1	7	0	11	95	2,038	
40	福岡	565	75	1,111	18	383	191	7,389	145	2,941	4	72	0	40	433	12,501	
41	佐賀	222	24	352	14	331	73	2,911	40	937	0	0	0	0	151	4,753	
42	長崎	457	56	904	17	282	147	4,709	102	1,971	2	30	0	69	324	8,422	
43	熊本	463	65	783	16	330	142	4,650	57	1,516	2	43	1	6	283	7,791	
44	大分	210	57	572	11	187	99	2,435	26	670	0	23	0	42	193	4,139	
45	宮崎	310	57	495	22	478	159	3,265	40	941	1	20	1	4	280	5,513	
46	鹿児島	341	115	1,092	39	441	186	4,987	73	1,284	2	39	0	1	415	8,185	
47	沖縄	76	44	645	10	118	44	1,057	27	341	0	0	1	28	126	2,265	
48	日本学連	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	19	435	6,907	436	6,929	
	合計	11,073	3,199	46,346	853	19,728	7,079	280,857	3,213	85,632	48	1,037	445	7,945	14,837	452,618	
	昨年度	10,572	3,176	46,683	850	19,412	7,111	288,530	3,218	84,365	49	1,023	438	7,690	14,842	458,275	

(平成29年3月31日現在)